

# KPECC news

Vol.55  
2011.8.12

Kitakyushu Prosperity Enrichment Council

## c o n t e n t s

- 01-02 世界に広がる北九州の明日を考える講演会
- 03 ひまわり塾  
～第19期が活動を終了し、第20期が活動を開始～
- 04 北九州地域産業人材育成事業  
僕らのハローワークプロジェクト
- 05-06 公益財団法人 北九州活性化協議会  
第6回理事会・評議員会報告



公益財団法人 北九州活性化協議会

### 「世界に広がる北九州の 明日を考える講演会」開催！

— 「企業における危機と変化」がテーマ —



経済のグローバル化の進展による国際競争の激化や企業の海外シフト、高齢化と人口減少等の構造的課題を抱える北九州市。

世界の発展軸が多極化する中で、世界経済に大きな影響を与えた東北大地震が発生。「先の見えない時代」にあつて、企業は新しい環境をどう受け止め、この危機と変化にどう対応していけばよいのか？今、経営者に求められるリーダーシップのあり方を問い、「ものづくりのまち—北九州市」の向うべき方向とその道筋を考える街づくり講演会を開催。

650人の経営者や市民が、新日本製鐵株式会社代表取締役会長三村明夫氏の「時代を見通す力」と「鍛え上げられた現場力」の重要性を学ぶ。





## 世界に広がる北九州の明日を考える講演会



日時 平成23年7月7日(木) 15:30 ~ 17:00

会場 北九州国際会議場 メインホール

演題 企業経営における危機と変化

講師 新日本製鐵株式会社 代表取締役会長 三村 明夫 氏



## 略歴

1940年、群馬県生まれ。東京大経済学部卒。63年富士製鉄(現新日鉄)入社。72年米ハーバード大ビジネススクール卒。販売総括部長、常務取締役、代表取締役副社長03年代表取締役社長、08年代表取締役会長。鉄鋼連盟会長、経団連副会長、中央教育審議会会長、内閣府経済財政諮問会議議員など歴任。

## 大震災で見た`現場力、のすばらしさ

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、地震、津波、原発事故が重なり、まだ収束していません。被災者の方を思うとやり切れなさ、憤りでいっぱいです。

大きな危機は、その組織が有している長所、短所を顕著に拡大して見せ、国家であれ、企業であれ、日ごろの経営、運営の成否がためされる場でもあります。

まず長所は、自治体や官庁の地方組織、出先の各機関がみせた素晴らしい現場力、与えられた仕事を着実にこなすだけでなく、予期せぬ現場のトラブルに対し、自らの判断で的確に対応、処理したこと。

釜石製鉄所でいいますと、岸壁、バースなど被害を受けましたが、本社からの指示など待たずに処置にあたりました。他の企業でも同様なことが行われたことと思います。

道路、港湾についても、部分開通ですが、驚くべき早さで復旧。東北自動車道などの幹線と港を結ぶ主要道路はわずか4日間で全通という早さでした。港湾も、一部ですが、瓦礫撤去など行い航路を確保、物資の大量輸送に対処しました。

半導体などの部品産業が被害を受け、自動車生産が大きな影響を受けましたが、自動車工業会はメンテナンス要員を総動員し、予定より1カ月も早く復旧しました。前年同月比で6月は88%、7月は99%という回復力です。現場力発揮の顕著な例です。

## 世界の評価高い日本

震災後、外国出張の機会がありましたが、「在庫をつくらない日本の生産管理システム『ジャスト・イン・タイム』の欠陥が露呈したのでは」と指摘されました。

私はそうは思っていません。このシステムは、サプライ(部品供給)チェーンで発生した事故がデータベースでチェックされ、ただちに修復されるという、いわば危機防止のシステムでもあり、今回もその効果が遺憾なく発揮されたと思っています。

日本に対する世界の評価が高いということも長所です。大震災では156カ国、42機関から援助の申し出がありました。多くの国で日ごろから評価、信頼されていたという証しだと思います。09年、BBC(英国放送協会)が27カ国を対象に調査した結果では1位ドイツ、2位が日本でした。

さらに長所としては、東北の人々のモラルの高さ、忍耐力、感謝を忘れない心には感動させられます。そして日本人の連帯感の強さ、若者の社会への貢献活動もそうです。中央教育審議会のある

部会で岩手県の教育長が、「日本の若者を誇りに思う」と話していました。

## 震災で見えなくなった構造的な課題

短所は政府の対応のまずさ。早急に法律の改正や特例、特区をつくり、対策を実施しなければならないのに、与野党とも不明瞭な対策会議を乱立。官僚は対策会議のための対策に追われるという有様。法律に制約される官僚は、復興のための法案を早く通さなければ動きがとれない。企業経営者であれば、危機を構造的な課題を改革するトリガーとして活用します。

震災から4カ月。阪神・淡路大震災では発生後3カ月以内に17本の関連法案が成立したのに、今回はまだ13本のみ。震災対策特別法案に至っては、阪神大震災が36日目に成立しましたが、被害も規模も大きい東日本大震災はやっと100日目。政府の強いリーダーシップが求められているのに、国民の要望に応えていません。

また、大きな課題は財政難。リーマン・ショック後、中国や米国など多くの国が思い切った財政出動で健全財政回復に取り組んできましたが、日本はいまだにはっきりしません。これは日本にとって重大な欠陥です。増税は景気悪化などを口実に先送り。TPPや消費税と社会保障改革問題、法人税引き下げなどしかりです。

これらの課題はどこにいったのか。大震災という目に見える災害は、誰もが共通の危機感で、対策を立て、実行できます。

厄介なのは目に見えない危機。震災前から数々の構造的な課題が認識されていましたが、それが震災で見えなくなってしまっている。復興が最優先の課題であることは当然ですが、震災によってさらに弱体化された目に見えない構造的な課題への対応が遅れると、企業は存亡の危機に陥り、国は衰退します。

## 急速に進む生産拠点の海外移転

震災前からの課題とは、急速に進んでいる生産拠点の海外移転。移転を選択せざるを得ない要因が構造的課題で、それを取り除くことが解決策です。被災地の復興と日本経済の再生は表裏一体。同時進行で取り組まねばなりません。

日本再生の道は、加工貿易によるものづくり立国が唯一の生き残る手段です。貿易黒字国であり続けることが大前提であり、そのためには①国際競争力のある産業群の存在 ②原材料をリーズナブルな価格で安定的に入手できる環境の存在 ③国際競争力は自助努力で構築すること——の3条件がかなめです。

いずれも昨今の国際情勢で、これらが大幅に劣化している。中国や韓国などの台頭で、国際競争力はおびやかされ、さらに原

料やエネルギー資源、食糧の高騰、レアアースにみられる資源ナショナリズム、そして資源保有国との競争力格差などが要因。

とくに自助努力の前提条件となるビジネスインフラ(イコールファイティング)の整備は大事です。

一つは法人税。例えば、韓国の製造業の高い利益は法人税率の低さ。韓国の約25%に対し日本は40%。仮に日韓の鉄鋼業が毎年3,000億円の経常利益を上げたとして、そこから固定資産税など含めた税金を差し引くと10年間で7,000億円もの差が出ます。7,000億円あれば、大きな製鉄所の新設や鉱山も買える。法人税率がいかに国際競争力の上で障害になっているかが分かります。

## 自由貿易で開国を

二つ目はEPA(経済連携協定)やTPP(環太平洋パートナーシップ協定=自由貿易圏構想)の促進。自動車为例にとりますと、韓国は全世界4,000万台のマーケットにフリーアクセスできますが、日本は800万台。差は歴然です。

TPP参加は、大震災による東北地方の農業再生などで後退した観があります。しかし、日本の農業改革は震災以前からの課題で、農業人口の減少、生産性の低さといった問題解決は先延ばしのみまなのです。TPP参加と農業改革は二律背反ではなく、TPPに関係なく、改革すべき課題と思っています。

また、原子力政策の見直しなどでCO<sub>2</sub>の25%削減はどうなるのか。突出した数値ではなくバランスのとれた排出削減であるべきと思います。

## 六、七重苦の企業

さらに独禁法などの弾力的運営への課題や円高問題、内需低迷などに加え、大震災で電力供給問題も発生しました。このように企業は六重苦、七重苦に苦しんでいるのが現状。外貨を稼がねばならない製造業が、海外移転せざるを得ないような状況となっていることが課題なのです。いったん移転すれば戻ってはこれません。雇用の喪失、人材流出など、経済の潜在成長力を長期にわたりむしばむこととなります。

自動車、電気、鉄鋼に代わる新しい輸出産業の誕生はここ10年以内には期待できません。となると既存産業に対する国内環境の整備が欠かせません。法人税率引き下げの方向性をきちんと示すことも重要です。

## 新エネルギー政策は包括的、現実的に

また、原発事故で電力供給不安といった問題に対する新エネルギー政策は、第一に包括的かつ現実的でなくてははいけません。不足すれば、その影響は限りなく大きい。原子力に代わる新エネルギー導入にしても、その費用をどうするのか。誰が負担するのか、料金は、などすべて国民に提示する必要があります。

2030年までに原子力による発電を全体の50%まで増やすという政策は修正せざるを得ないでしょう。どの程度まで原子力依存にするのか決断しなければなりません。脱原子力は思想ではあっ

てもエネルギー政策にはならないと思います。

新しい原子力政策を考えるためには、今度の原発事故についても、IAEA(国際原子力機関)など国際機関の協力で徹底的に原因を究明し、包み隠さず国内外に公表することです。失敗には必ず原因がある。信頼にたる原因究明が必要です。

## 崩れつつあるものづくり立国の「ところ」

エネルギー政策が、経済成長率に大きな影響を与えることは間違いありません。個々の企業は電力不足などの七重苦に直面して、さらなる海外移転を考へざるを得ない状況にあります。しかし、「移転が合理的な行動」と割り切っても、心の中にためらいがあります。強い日本が必要であること、その基本ともなる素材産業と組み立て産業という外国にない強い連携。企業は何のためにあるのか。大きな目的は従業員の幸せのため。そして地域貢献があります。ためらいの理由はそこにあります。

しかし、厳しい現状に、そのためらいが、薄れつつあるのではないかと。つまり、ものづくり立国を成立していた基本条件が崩れつつあるのではないかという懸念です。この危機感を共有することが今、一番大事なのではないか。そうすれば対策はできる。

製造業の海外移転は急スピードで進んでいます。政策投資銀行の調査では2009年～10年にかけて、製造業の海外設備投資は43.9%と増加。これに比べ国内投資はわずか5.9%増です。設備投資全体の50%を占める自動車産業で海外投資が国内を17%も上回っています。

## 合併、再編は重要な手段

新日鉄も海外の成長需要を取り込むためグローバル企業を目指す決意です。しかし、国内の能力はそのまま維持していきます。例えば、八幡製鐵所においても高炉の拡大改修を検討しています。合わせて国内での生産でも世界で競争できる実力をつけるために、原料やエネルギーをはじめとするあらゆる対策を行っています。

更なる対策は、住友金属工業との統合です。国内では需給ギャップが顕在化し、デフレが止まりません。従って、日本の製造業は海外市場に活路を見出すしかありません。

しかし、中国や韓国は国策で合併、統合により巨大メーカーを造り上げ、資金調達力、技術開発力、どれをとっても強い。企業規模拡大のため、合併や再編は国際競争力獲得の重要な手段です。今回の統合は、両社経営者の現状と将来に対する強い危機感と決意が後押ししたと思っています。

競争の場は海外です。住金との合併は、大きなシナジー(相乗)効果と競争力を生み出します。今回の統合は、政・官・財、学会、マスコミなどからご支持をいただき、この統合が時代の必要性を踏まえ正道を歩んでいると確信を得ています。また、各産業、各企業とともに、日本の現状に強い危機感を共有していることを確認しています。日本のためにもこの統合を成功させ、今後、同様の試みにチャレンジする企業が続くことを期待しています。



## ひまわり塾 ～第19期が活動を終了し、第20期が活動を開始～

「ひまわり塾」は、企業人と市職員がまちづくりについて学習し考える講座として、(公財)北九州活性化協議会と北九州市が共催で実施している。第19期の終了と第20期の開始に当たって、第19期グループ研究発表会・閉講式および第20期開講式が、平成23年7月8日、ステーションホテル小倉にて開催された。

### 第19期のグループ研究発表

各グループとも工夫をこらした熱心な発表により聴衆に感動を与えた。

テーマ

### 地産地消推進イベントの開催

Northern All Stars (市職員1名、民間5名)

北九州市民に特に野菜を焦点とした地元食材を各種イベントを通じて紹介し、フードマイレージを削減するとともに、街の賑わいづくりを進めた。

採れたて野菜の直売や、地元野菜を材料としたスープバー、「我が家自慢のカレーコンテスト」等に多くの参加者があった。

今後は、出店店舗がこのイベントを参考にして、引き続いて地元食材のPRを行なう予定。



テーマ

### 若松の休日

～快盗黒ダイヤのほくほくなまち巡り～

若松の休日実行委員会 (市職員4名、民間3名)

レトロな建物や町並み、若戸大橋が作るダイナミックな景観、旅気分を演出する渡船など多くの魅力を持つ若松南海岸エリアだが、その良さが十分に認知されていない。

情報発信力が高く、行動力がある30代女性にターゲットを設定して、同エリアを素敵に紹介するイベントを実施。約250人が渡船クルーズや黒ダイヤ探し、ランチやスイーツの店巡り等を楽しんだ。

今後の若松のPRの手段のほか、ほかのまちでも活用できる企画モデルとして提案する。



テーマ

### 北九州育メン増殖プロジェクト！

～パパ友は地域を救う！～

HUG ～親はぐ子はぐ 応援団～ (市職員4名、民間3名)

子育て中の父親の育児休業取得率は平成21年度は1.72%と、前年より0.5ポイント増加したが、まだまだ低い状況。父親同士の交流の場を設け、イクメンを増殖する目的で、八幡西区の八枝市民センターや折尾西市民センター等において父と子の交流を深めるイベントを開催した。

今後も継続してイベントを実施するとともに、ホームページを開設し、子育てに関する情報交換を促進する。



テーマ

### 黒崎で匠に学ぶ

～有名店による交流体験型教室～

北九集仕掛人 (市職員3名、民間3名)

市内5区の代表的な商店街の活性化状況を現地調査し、黒崎商店街を舞台にまちづくり活動を行うことにした。「店」「客」「ひまわり塾生」の3者が楽しめることを基本コンセプトとして商店街の方と相談し、やる気があって持続的な効果が見込めそうな5店を選んで、交流体験型のイベントを実施した。107名の参加者があり、リピーターも生まれている。

今後は、店主が自立してイベントを行なえるよう支援していく。



名誉塾長の北橋健治北九州市長、塾長の小嶋一碩KPEC理事長から活動に対する熱いお言葉を頂き、またコーディネーターを務めた(有)感動ファクトリー代表取締役 金丸勝利氏、北九州市総務企画局シティブロモーション部次長 大谷俊介氏が講評を行なった。

最後に第19期生を代表して協栄興産(株)の織田崇志氏が1年間の活動を振り返り、また第20期生を代表して(株)アウルズの高畑舞子氏が今年度の抱負を述べた。



名誉塾長  
北橋健治  
北九州市長



塾長  
小嶋一碩  
KPEC理事長



コーディネーター  
金丸勝利氏



コーディネーター  
大谷俊介氏

## 北九州地域産業人材育成事業

### 九工大で第1回北九州地区学内企業説明会を開催！

これまで、北九州の地元企業の情報不足等が原因して、九工大卒業生の就職先は、関東や関西の大手企業が中心だった。しかし、近年の社会環境の変化を背景に、学生の地元就職希望も増加傾向にあり、九工大では、「北九州地域産業人材育成事業」の一環として、北九州地域の中堅・中小企業を対象にした学内企業説明会を特別

に企画実施する。

- 日時 平成23年8月31日(水)
- 場所 九州工業大学戸畑キャンパス 総合教育棟
- 申込み問合せ先 九州工業大学 工学部キャリアセンター

### 北九州地域産業人材育成事業 —インターンシップ事業進む！

KPECが連携軸となって推進する「北九州地域産業人材育成事業」の中核事業であるインターンシップ事業において、積極的に企業を勧誘し、43社(46コース)に受入れして頂くことになった。これからの地域産業振興における人材育成の重要性が改めて確認された。

本事業に参加する九州工業大学、北九州市立大学では、学生の参加促進のためインターンシップ推進セミナーを実施。(九工大195人、北九大113人が参加) また、学生に地元企業を知ってもらうため

「工場見学バスツアー」を3回実施。

延55名の学生が参加し、「地元企業を知る良い機会となった。」との声が聞かれた。さらにインターンシップ参加希望の学生に対して、北九州テクノサポートのコーディネーターが相談会を開くなど、インターンシップに対する不安や希望する業種とのマッチング等、学生のニーズに応えるきめ細かな作業を進め、8月末からの実施に備えている。



インターンシップ推進セミナーを開催、両校で308人の参加



工場見学ツアーでの企業説明

## 僕らのハローワークプロジェクト

### キャリア教育、キャリア支援における地元企業との連携強化へ

平成18年の北九州市立大学のキャリアセンター開設と同時に、キャリアセンターと協働で「僕らのハローワーク」事業を開始した。

この事業では、経営者や若手社員との対話を通して企業理念や現実の業務への理解を深め、また企業とのコンタクトを通してマナーを学ぶなど、地元企業への視野拡大や社会で働くために必要とされる力の獲得に高い効果が示された。以降、企業との連携事業など新たな教育プログラムの充実により、マナー教育や職業観醸成のほか、社会で働くために必要とされる力の育成にも成果を上げている。最近では、地域創生学群や地域共生教育センター(421Lab.)と連携し地域における課題解決型学習の展開を進めている。

キャリア支援に関して、「僕らのハローワーク」事業に参加した学生は企業研究や対話を通し企業への関心を高めており、大学の進路指導と交流が知名度の低い企業の知名度向上に効果があることが示された。以降、学生と企業のマッチングを促進するため、学内合同企業研究会、学内企業セミナーなど企業との交流事業を展開し、

ほぼ全学生の関心を集め、「僕らのハローワーク」事業に参加した企業への就職が実現している。



企業とのマッチングを進める合同企業説明会



# 公益財団法人 北九州活性化協議会 第6回理事会・評議員会報告

第6回理事会（5月27日）・評議員会（6月3日）が、北九州市立商工貿易会館にて開催され、平成22年度事業報告など、全ての議案が承認されましたので、概要を報告します。

## 〈一般事業〉

### 1. 持続可能な環境への取り組み

「もったいない総研」の運営を通じて以下の環境関連の事業を実施した。

#### 1-1 もったいないスクール2010

##### （北九州ひまわりプロジェクト2010）の実施

子供たちを対象とした環境教育を進めるため、(社)北九州青年会議所と共同で「もったいないスクール」を開催した。

##### (1) 講演会「ひまわりを活用した地域活性化」

静岡県富士市が進めている「ひまわり」を利用した特産品づくり「花エコプロジェクト」のプロジェクトの中から、静岡県立吉原工業高等学校が行なっているトイレトーパー「ひまわりロール」の開発・販売事業を紹介した。

##### (2) 寸劇「環境戦士 アースマンショー」

寸劇を通じて、親子に「ひまわり」の有効さや「もったいない」精神の浸透・普及を図った。

##### (3) 「エコスタイルタウン2010」への参加

「エコスタイルタウン2010」に「北九州ひまわりブース」を出展し、ひまわりと菜の花の種の搾油体験をしてもらった。

#### 1-2 もったいない精神(こころ)の普及

##### (1) 環境「もったいない」作文の募集、表彰

小・中学生の環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と協働で「環境作文」を募集・表彰を行うと共に、入賞作品を活用した啓蒙事業を実施した。

○募集対象 北九州市内全域の小学5年生、中学2年生

○応募数 651名

○表彰式 平成23年1月15日(土)

商工貿易会館2階多目的ホール

##### ○啓蒙事業

##### 〈1〉入賞作品展

入賞作品全20点をタペストリーに加工し、北九州イノベーションギャラリーで展示した。

##### 〈2〉ラジオ媒体による作品紹介

FM北九の番組に市長賞受賞者が出演し作文を朗読した。

##### 〈3〉市内全小学校への啓蒙事業

入賞作品をCD化し、市内全小学校へ配布した。

##### (2) 「ブラック・イルミネーション&キャンドルecoナイト in北九州2010」

環境省の『CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン』と、民間団体の『百万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同し、「ブラック・イルミネーション&キャンドルecoナイト in 北九州2010」を実施した。

##### ① ブラック・イルミネーション

○実施日 冬至(12月22日)、12月23日 18時～20時

○内容 CO<sub>2</sub>の削減を目的に、北九州活性化協議会の会員企業・団体を対象に事業所照明の消灯キャンペーンを実施した。

##### ② キャンドルecoナイト

○実施日 12月23日 18時～20時

○場所 門司港レトロ地区(港ハウス広場周辺)

○内容 手作り再生キャンドル(約1,000個)の点灯(観光客と協働)。旧門司税関で帆柱少年少女合唱団やゴスペルシンガーグループの賛美歌等の合唱。

○参加者 約500名

##### (3) 食と農のプロジェクト

地産地消によるフードマイレージの削減や身体にやさしい有機栽培作物を広めている「食のロハス」の理解・増進を目的に、「もったいない総研」ホームページによるオーガニック農園やレストラン、ショップ、ネットワーク団体の紹介と発掘を行った。

##### (4) 年長者研修大学校への出前講演

シニア層への「もったいない総研」の直近の活動紹介、および「もったいない総研」が企画立案したリサイクル・トイレトーパー「北九州紙えこっパー」の紹介を目的に出前講演を実施した。

○穴生学舎 〈実施日〉9月28日 〈参加者〉30名

○周望学舎 〈実施日〉1月20日 〈参加者〉42名

##### (5) 北九州市PTA協議会へ寄付

大分製紙(株)(リサイクル・トイレトーパー「北九州紙えこっパー」の製造・販売を実施)からの寄付金20万円を子供の環境教育の一助として北九州市PTA協議会に寄付した。

#### 1-3 もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発を目的に北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて、月1回「ラジオもったいない塾」を企画・運営した。

#### 1-4 広報活動

もったいない総研の活動を、「もったいない総研」のホームページや冊子で情報発信し、市民意識の向上を図る。

##### (1) 広報誌「もったいないスタイル」の発行

(平成23年3月、1,500部)

##### (2) もったいない総研ホームページの改訂

## 2. 産学連携による高度人材の確保・育成への取り組み

### 2-1 北九州地域産業人材育成事業の企画・開発

#### (1) 産業人材育成事業推進のための組織づくり

地域の大学及び企業のニーズに対応した産業人材育成の環境創りと事業推進のため、大学及び地域企業のコンソーシアムによる推進組織「北九州地域産業人材育成フォーラム」を設置した。

#### (2) 産業人材育成事業の実行計画の企画・立案

北九州市内の大学における産業人材育成関連制度等を調査・整理し、「北九州地域産業人材育成事業の企画・計画案を取りまとめ、長期インターンシップを中心としたH23年度事業の実行計画の立案を行い、北九州市と共同実施・運営をするための環境づくりを行った。

### 2-2 MBAプログラムによる社会人教育の実施

企画委員会の社会人教育の推進事業として、北九州市立大学のMBAプログラムを活用し、マネージメントを中心とした企業人の経営力向上プログラムを実施した。

○事業名 「MBA in KIGS 2010」

○実施期間 平成22年9月1日(水)～3日(金)、9月11日(土)

○講座 8講座(約12時間)

○受講者 77名(募集30名)

## 3. 次世代を担う人材の育成への取り組み

### 3-1 経済人による義務教育支援活動の推進

#### (1) 北九州義務教育支援活動推進のための組織づくり

北九州・経済人による義務教育支援事業を推進するため、地域経済界の代表者及び本事業に賛同をする企業ネットワークによる推進組織「北九州義務教育支援フォーラム」を編成した。

## (2) 北九州市教育委員会との事業連携の実施

義務教育支援活動研究会の報告書を踏まえ、義務教育支援について北九州市教育委員会と協議を行い、今後の事業運営における連携推進を確認するとともに市長報告を行い、当活動が北九州市長の公約に組み込まれた。

## 3-2 「僕らのハローワーク事業」の実施

地元大学のキャリア教育と地元企業のPRを目的に「僕らのハローワーク事業」を実施した。

### (1) 取材事業(キャリア教育推進)の実施

- 取材企業 33社(データ更新のみ:47社)
- 参加学生数 29人

### (2) 成果品の活用による情報提供事業

取材結果を「現役大学生が紹介する北九州市域の元気な会社情報」をタイトルにCD化し、北九州市域企業及び福岡県下の高校、大学、専門学校(150校)に1000枚を配布した。

- 配布 1,000枚(150校に配布)

## 3-3 ひまわり塾の開催

北九州市と共催で、企業人と北九州市職員による北九州市のまちづくりについての自己啓発講座 第19期ひまわり塾を開催した。

- 実施規模 塾生27名(企業人15名、市職員12名)
- 講座及び研究会の開催

〈期間〉平成22年7月2日(開講式)から1年間

〈開催状況〉テーマごとに4グループに分かれて研究活動を行う。

〈研究会のテーマ及びグループ名〉

若松の休日(観光・イメージアップ班)

黒崎で匠に学ぶ(北九集 仕掛人)

親はぐ子はぐ応援団(HUGチーム)

We love KOKURA food market(Northern All Stars)

## 4. 北九州の都市格向上への取り組み

### 4-1 「北九州ひとつくり寄金

#### (北九州夢のかけ橋寄金)事業の実施

#### (1) 「北九州夢のかけ橋寄金」事業の推進のための組織づくり

「北九州夢のかけ橋寄金」事業を推進するため、「北九州夢のかけ橋寄金委員会」を設置し、募金活動部門と助成審査部門の事業企画・開発を行うと共に推進体制を構築した。

### 4-2 北九州ミュージックプロムナードの開催

北九州活性化協議会が企画して平成8年に始めた、市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」の実行委員会(委員長:中野副理事長)へ参画し、事業企画の調整を行った(「北九州ミュージックプロムナード2010」は平成22年で15回目)。

### 4-3 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進するための機関として平成19年に設置された「北九州市にぎわいづくり懇話会」の企画調整委員会(委員長:小嶋理事長)へ参画し、事業企画の調整を行った。

## 5. 情報受発信・交流事業

### 5-1 ABLEサロンの開催

KPEC活動の方向性を探り、北九州活性化情報の受発信を行うため、通年事業の一つとして「ABLEサロン」を開催した。

第65回 ABLEサロン 平成22年6月4日

演題:「ソーシャルビジネスの振興について」

講師: 経済産業省 地域経済産業グループ立地環境整備課 課長補佐 辻本崇紀氏

第66回 ABLEサロン 平成22年11月9日

演題:「アジアの低炭素社会を目指して~アジア低炭素化センターの取組~」

講師: アジア低炭素化センター技術移転マネージャー 飯塚 誠氏

第67回 ABLEサロン 平成23年11月9日

演題:「地域マーケティング発想による小倉中心市街地のまちづくり」

講師: 小倉地区中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー 吉田 潔氏

## 5-2 情報受発信の強化

### (1) KPECニュースの発行

機関紙として「KPECニュース」を編集・発刊し、会員企業をはじめ関係機関・組織に配布した。

○配布部数 1,000部

○発行 年3回(4月27日、8月12日、1月1日)

### (2) まちづくり講演会の開催

公益財団法人の認定を記念して、7月2日(金)、北九州国際会議場にて、まちづくり講演会を開催した。

○講師 内閣府「新しい公共」円卓会議 座長 金子 郁容氏

○テーマ

「まち是谁のためにあるのか — 新しい公共(おおやけ)の創造 ~地域連携による社会のイノベーションを考える~」

○開催日 7月2日(金) 15時~17時

○場所 北九州国際会議場メインホール

○聴講者 500名

## 5-3 地域おこし研修交流

### (1) 「地域づくりネットワーク福岡県協議会」への参画

北九州ブロックの代表幹事として「地域づくりネットワーク福岡県協議会」幹事会に出席し事業企画等について協議すると共に、地域づくりフォーラム等に参加し他団体との情報交換・交流を図った。

## 〈指定管理者事業〉

### (1) 利用者目標・実績

入館者、企画展観覧者、教育普及事業参加者の数値目標はいずれも達成した。また、企画展観覧者数(21,216人)、教育普及事業参加者数(10,008人)は記録を更新した。(これまでの最高値 \*1:19,440人 \*2:9,906人:共に平成21年度)

### (2) 活動実績

#### ① 教育普及事業

事業計画に沿って、イノベーションフォーラム(1回)、技術革新講座(6回)、ものづくり講座(6回)、デザイン講座(3回)などを開催した。

#### ② 企画展事業

事業計画に沿って「時代を生き抜く宝物たち展」、「立体の夢-3D大集合展」、「科学模型展」および「時間旅行展」を開催した他、3つの特別展を開催した。

#### ③ 調査研究事業

i) 特殊・大型重量物の輸送据付技術の変遷

ii) ユニバーサルデザインの視点から見た公共の水まわり(トイレ)の変遷

iii) 白熱電球の技術の系統化調査

iv) 北九州産業技術史の調査・研究全体編:平成22年度~23年度

v) 北九州産業技術史の調査・研究(個別企業編:平成22年度~23年度)

vi) 世界の科学博物館の概要に関する調査・研究

#### ④ 映像の制作

(ア)「重力への挑戦:超重量物輸送・据付:ユニットドローリー物語(山九株式会社)」

(イ)「旋盤:6面体キュービックの加工技術」

(ウ) KIGS紹介DVD

# 飛べ!

Fly! SKY challenger exhibition

## 『空の挑戦者たち』展

飛ぶことに魅せられた、過去から現代までの夢追い人たち。



今年の夏は、『技の伝承館』イノベーションギャラリーに注目!

初公開!

実物大  
零戦  
ラジコン

パイロットになる!

フライトシミュレーター

みんなで作ろう!

工作飛行機

2011.

7/9 (SAT) ⇒ 9/25 (SUN)

「こども文化パスポート」提示で企画展観覧料無料 (7月16日~8月31日)

- 入場料 / 大人 500円 小中学生 250円 (30名以上の団体は2割引)
- 開館時間 / 9:00~19:00 ※企画展示室への入場は開場時間の30分前まで (土日祝と7月21日~8月31日の月曜は17:00まで)
- 休館日 / 毎週月曜日 ※月曜が祝日の場合は翌日 (7月21日~8月31日は無休)

**KIGS**  
北九州イノベーションギャラリー  
産業技術伝承センター  
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO  
指定管理者 公益財団法人 北九州活性化協議会

**北九州イノベーションギャラリー**  
北九州市八幡東区東田2-2-11 TEL.093-663-5411 <http://www.kigs.jp>



● 主催 / 北九州市、北九州イノベーションギャラリー ● 後援 / 北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、西鉄バス北九州(株) (順不同)

■ (公財)北九州活性化協議会は北九州イノベーションギャラリーの指定管理者として運営管理を行っております。